

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念に基づき事業所理念をつくりあげている。また、毎年各ユニットの理念をかかげケアの道しるべとしている	○ 地域とのつながりを理念の中に取り込むことで意識する
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ケース会議やミーティングの際に、理念に沿ったケアが出来ているか振り返っている。また、ホーム内へのや、利用者や家族、職員の目の届く所に掲示して意識を促している	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	行事に取り込むことで交流を図ったり、地域に出向き利用者が安心でいる環境の提供に心掛けている	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的な買い物や散歩、行事などを通じて近隣との関係が途絶えないように配慮している。	○ 今後もより個別性を大切にしながら、可能な限り近隣との関係性を維持していきたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	年間の行事に取り込むことで交流が途絶えないように心掛けている	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	職員については、内部研修や外部研修を通じ、専門的な知識を取得できるような体制をとっている。また、運営推進会議等を通じて地域の状況把握や認知症ケアについての相談等を受けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価していただくことで日々のケアをみつめ直し、ミーティング等行い次への取組みに活かしている		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会のなかで色々な声を聞くことで職員会議等で伝え話し合いを持ちサービス改善に向けて取り組んでいる		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外に地域密着型サービス連絡会等を活用し行政機関との連携体制の構築に努めている		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	以前は地域福祉権利擁護事業や成年後見制度などについての学ぶ機会が法人、事業所単位であったが、現在では勉強会の実施はできていない状況にある。必要性がある利用者については関係機関と連携をとりながら情報提供は可能である。	○	今後も、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度についての学ぶ機会を作って行きたいと考えている。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングや職員会議等を使って出来るだけ学ぶ機会を多くとるようにしている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の不満苦情を細かいことまで取り上げ記録に残し改善点に向けてミーティングを行い寄りよ暮らしを提供出来るよう心掛けている	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や電話連絡にて報告したり毎月のホーム便りにて日々の細かい様子など担当職員にてコメント入りの送付を行いホームでの様子がとだえないように心掛けている	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム玄関口に意見箱等を設置したり、定期的にはホーム便りにて機会を設けている。また、行事や面会に来られた際に意見等、引き出せるようにしている。また、今年度より事業計画の説明と利用料金改定についての説明会を実施し、ご家族の意見を反映するための取り組みを行った。	○ 今後も、ご家族等の方が意見が聞けるような機会を作って行きながら運営に反映していきたいと考えている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、内部研修を行い意見を聞いている。また、朝礼を利用し問いかけたり聞き出したりするようにしている。	○ 会議の場に限らず、職員の意見が反映できるような取り組みを今後も実施していきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事や研修等は、可能な限り多くの職員でケアできるよう調整を行っている。ローテーションを組んでおり柔軟に職員の配置を考えている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	3ユニット合同の朝礼を行っており、他のユニット職員でも利用者の状況がわかるように配慮している。また、法人内の異動もあるのでその後も顔を出したりしてできるだけ変化のないように配慮している。	○ 法人単位での異動もあるために、事業所内に限らず、今後も配慮をしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職場内・外の研修を計画的に実施しながら質向上を図っている。また、法人単位での段階に応じた研修体系もあり実施している。また、個別面談を行い個別の年間目標を立てる等向上心を持たせている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>近隣の同業者間の意見交換が出来るような会議への参加や専門的な知識や情報が得られるような勉強会などの情報提供も随時行っている。。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>スタッフのストレスを出来るだけ解消するために個別面接を行い悩みや相談事などを聞き取る機会を設けている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>資格取得取得に向けての内部研修、勉強会の実施、情報提供を行っている。また、人事考課制度を取り入れ、各人が目標を立てて向上心がもてるように配慮している。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前面談で生活状況を把握するよう努め、本人の思いに向き合い、スタッフが本人に受け入れるような関係づくりに努める。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>申し込みの際今までの経緯をゆっくり聞き、事業所として対応出来るか検討、個人情報に配慮しながら関係機関とも連携を図り情報の収集につとめている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	主治医や地域のケアマネージャー等と連携を図りながら関係機関との柔軟な支援が出来るように心がけている。早急な対応が必要な相談者には他のサービス機関を紹介するなどしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	今までの生活を大切にしながら家族の方々にも協力を頂き不安を取り除く事を一番に考えるよう配慮している		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で出来ることは共に一緒に作業したり、行動、会話、などあらゆる場面で活動することで学び一緒に過ごす一体感を感じることができる。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	どんな小さい事でもお知らせし一緒に考え、また面会等で相談したりされたりの関係作りに心掛けている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入退院や特変時にその都度連携を取っている。誕生会等の行事への参加も呼びかけにより、共に過ごす機会を作っている。また、毎月事業所便りにより連携を図っている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の要望に応じ、自宅へ帰られたり昔から馴染みの理髪店を利用し、その中でふれあいを持って頂いている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食堂でのお茶飲みや食事を通し、関わり合いの場を作っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用(契約)が終了した利用者や家族についても、電話や手紙等のやり取りをしている。また、広報誌も送付して事業所の取り組みも啓発している。	○	今後も疎遠にならないよう広報誌等を送付し、継続していきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御家族や本人からの直接の情報収集の他、それまでに関わった関係者等から情報収集を行い、本人の意向の把握に努めている。	○	意向を直接伝える事のできない方については、普段の会話や表情で検討していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始前は、訪問等を行い、本人・家族からの情報収集に努めている。また、入居後についても、面会時などに家族や知人からも情報の収集に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員一人一人の気付きを出し合い、ミーティング等で話し合い把握するように心がけている。	○	意思を伝える事の出来ない方については、会話や表情で読み取るようにしていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人との会話の中でまた、家族からの情報収集により生活歴等を知り意見や要望を確認した上で介護計画が作成されている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的なミーティングで現状の把握と評価が行なわれており、介護計画の内容を検討した上で必要に応じて計画の見直しが行なわれている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気付いた事をケース記録や引継ぎ帳に記入し、必要に応じてミーティングを行い検討している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	今年度より医療との連携体制をより充実し、利用者の状態に応じた支援を実施している		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議の開催や総合防災訓練時に消防署や駐在所などに協力を依頼しながら連携を図っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご利用者の希望に応じ訪問理美容やボランティア等広くサービスを提供している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議等を通じて、勉強会や事例検討会を実施している。地域包括支援センターとの連携が強化されるようになった。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を基に、往診や協力医療機関、その他のかかりつけ医等から適切な医療が受けられるように連携を図っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医との連携を図り、必要に応じて専門医療機関への受診も実施している。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週1回(医療連携)訪問看護を実施しており、日頃の健康管理、医療間の相談・助言、対応が気軽にできている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時については、ご利用者が安心して生活できるように情報提供を行い、頻繁に職員が見舞いに行っている、入院中についても家族との情報交換を図りながら退院後の生活について検討している。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所が対応しえる最大のケアについて家族への説明会を実施している。また、医療機関、職員間でも随時連携を図るようにしている。	○	利用者、家族の希望を尊重しながら、主治医との連携を密に図って行きたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医療機関との連携を密に図りながら対応している。6月より医療連携(訪問看護)の契約を結んだ。		
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	グループホームでの生活状況(支援内容等)を情報提供としてしっかり送るようにしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティングや職員会議等で、職員の意識向上の徹底を図っている。	○ 今後も個人情報の徹底に努めたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個々にあわせて声かけし、本人が自分で決める場面を持つように心がけている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別ケアに心がけている。また、一人ひとりの状態や思いに配慮しながら買い物、ドライブ外出等、行きたい時に付き添えるよう柔軟に対応している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	衣服については、好みの服がタンスから出しやすいように配慮している。理美容等については、馴染みの理美容室への外出を支援をしている。ご希望の難しいご利用者については職員が支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を準備するなど、体調やご希望を確認しながら一緒に取り組んでいる。準備、後片づけは日常的には行っていない。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	毎晩の晩酌、たばこ、行事等での飲酒についてはご家族、医師等に相談、量を決めて了承して頂いた中で提供している。その他にもご利用者が希望するものお聞きするよう心がけている。	○ 健康状態について医師と相談しながらご希望のサービスを提供できるようにする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	ご利用者の排泄パターンを把握し、なるべくトイレで排泄できるように促している。外出時等、失敗のないようトイレ誘導、声かけしている。日中はオムツから下着に変える等して支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一応ご利用者ごとの入浴日を決めているが、決定は利用にゆだねている。入りたい時間等も希望を聞き対応している。	○	なかなか入ろうとされないご利用者については、足浴、清拭等を薦めていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	基本的な流れの中で、日中の活動を重視し生活のリズムが安定するよう工夫している。ほとんどの方が好きな時間に昼寝や余暇を過ごしておられる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活作業(ちり紙たたみ、洗濯物たたみ)他、個人の趣味等、自然と役割ができています。ねぎらいの言葉かけや活動と一緒に。負担にならないよう体調にも配慮しながら行う。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者は小額のお金を手元に持っておられ買い物の際、自分で支払われるよう支援している。金銭所持がむずかしい方は、金庫で管理し必要な物品を購入している。	○	今後も安心感や満足感を持ってもらえるよう配慮して行きたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	要望に応じて、外食、買い物に行かれるように支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事でバスの散歩道等、外出する機会を多く作っている。出来るだけ個別外出にも対応できるよう心がけている。家族との外出も自由である。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者のご希望に応じて電話や手紙などのやり取りが出来る。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に面会に来ていただけるように対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ケース会議やミーティング等でケアを振り返るよう心がけている。	○	今後、定期的に資料を確認し徹底して行きたい
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関、居室の鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。夜間については、防犯上玄関の鍵はしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーに配慮しながら、さりげない支援に心がけている。また、安全面についても個別の状況を把握しながら、支援方法について検討をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々の能力に応じ危険な物については、保管場所を定めるなどして対応をしている。また、ひやりハット記録等の活用により事前に予防にも取り組んでいる。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひやりハット記録や事故報告書をケース会議やミーティング時に活用しながら、個別の状況に応じたケアを検討している。また、リスク等についての勉強会などを通じ知識の向上にも努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	ミーティング、内部研修等で定期的に勉強会を行っているが、実践的な訓練にまではいたっていない。	○	実践的な対応が出来るような、取り組みを今後継続的に実施していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の総合防災訓練を実施。行政機関や消防署、地域の消防団にも協力を依頼している。また併設施設の職員にも協力を依頼してご利用者と共に訓練を行っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご利用者ごとの状況を把握、スタッフ間でも常に情報を共有している。本人、家族のご希望を確認、支援方法については、事前に同意を得ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	早期発見に努め、日々の状態を記録、朝礼やミーティング等で情報を共有している。異常の際には主治医に報告。また週1回の訪問看護(医療連携)にも連絡を図っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された際、その都度薬の説明書に目を通し理解している。症状の変化についても、記録し主治医に連絡している。	○	理解のあるご利用者については、内服薬の説明を行っていききたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分、食事摂取量と共に、排泄についてもチェック表に記録し状態を把握している。内服薬のみに頼らず、水分、繊維のある食べ物、また、運動(散歩)などで便秘の予防に努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	義歯に関係なく、口腔ケアを徹底している。自立の方については声かけにて、食後の口腔清潔を促がしている。	○	自立のご利用者の確認が難しい、自尊心に配慮しながらの声かけを行い状況の把握に努めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの嗜好に合わせて献立を個別に作り提供している。毎日の食事、水分摂取量をチェック表につけ状態把握に努めている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成し予防に努めている。洗濯物も個別に行うなど予防の徹底に努めると共に、マニュアルについては学習する機会を設けている。	○	情報収集に努め、早めに感染症の流行に対応できるようにしたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、布巾等台所用品は毎日、消毒(漂白)をこころがけている。冷蔵庫の掃除や食材の残りの点検も行っている。	○	食品管理、衛生管理係りと協力し徹底した取り組みを行っていききたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ベンチやプランターを置き、花を植えたり庭先でお茶を飲んだりできる工夫をして一般の家庭と近い空間作りをしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には、常に草花を置き、清潔感のある場所になっている。又、季節の花を飾り季節感を採り入れている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関前にベンチを置いたり、和室にコタツを置いたりして利用者同士で過ごしたり、独りで和室に寝転んだり、自由にできる場所を作っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用された馴染みの物を置くなど、自宅での生活とさほど変わりのないよう好みの物を置ける部屋作りについて配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	いつでも窓が開けられるよう、窓側には物を置かないように努め、日中はなるべく窓を開けたり、エアコンの温度の調節に注意している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状態把握に努め、状態に合わせての安全確保と、自立支援に心がけている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	普段の生活の中で、個別にできることをみつけ洗濯物たたみ、ちり紙たたみ等職員と一緒に取り組んでいる。	○	混乱や失敗が生じた場合は安心出来るよう声かけをしていく
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先にベンチを置き、植木、プランターに花を植え、お茶を飲んだり、団欒、日向ぼっこが出来るようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

今年度私達のユニットでは、ご利用者の方の思いにできるだけ近づきたい、そのために一緒に対話する時間を出来るだけ作っていきたいという考えから、『あなたの思いを聞かせて下さい、一緒に語りもんそ』という目標をケアへの道標として掲げました。

この目標がより具体的なものとなるために、これからもご利用者の生活が出来るだけ閉鎖的にならないよう、また個々人の暮らしや時間を大切に、ご家族や知人・地域の人たちとのつながりや関係性を途絶えないようにすることを特に力を入れて行きたいです。今後もグループホーム鈴蘭での暮らしがより充実したものになるように、ご利用者・ご家族や地域の方々と一緒に歩んで行きたいとお思います。